

高石市、副市長２人体制スタート。

３月２７日に開かれた臨時議会において、４月から副市長の人事案件が賛成多数で可決されました。

なぜ、２人体制なのか。

副市長を２人雇用することが高石市にとってベストな体制ではなく、「どんな人材を雇用するか」が正否を分かちます。

優秀で、高石市にとって有益な人材なら、その対価をお支払いするべきであって、その逆なら副市長そのものが不要であるという認識をすることが、公平な考え方だと思います。

高石市にとって有益な人材とは？

以前にも、文部科学省から高石に出向された方は、国との強いネットワークを活かし、迅速な情報交換を行ったことで、全ての小中学校の耐震化早期達成に大いに寄与されました。支払った人件費以上の効果が発生しました。この時にも、人件費のムダと主張される議員がいましたが、こういった人材登用がなければ、これほどの耐震化の早期完了は有り得なかったでしょう。

そんな今の高石が抱える課題は、土地開発公社の健全化のために塩漬けになっている土地の道路事業化、災害に強いまちづくりするための防災強化といった内容です。これらの課題を乗り越えるためには、国の補助金の確保が必要となってきますが、東日本大震災による復興財源で増税まで示唆される状況のなか、国や府との迅速な情報交換できる体制が不可欠です。ひいては、高石市民が納めていただいている税金を最低限に抑え、行政課題を効率的にクリアできるものと私たちは考えています。

具体的な役割について。

お一人は、国土交通省や震災復興支援室などの経験から、土木部関係と危機管理関係、つまり上記の高石の抱える課題への対応に特化した業務をしていただける方であること。もうお一人は大阪府から派遣され、それ以外の事務を担当されるとのことです。

役割分担の関係をみれば、今後、高石は重点分野として防災にかなりの力点を置いていく方針であると窥えます。

そして、何よりも副市長に求められるのは、市長と職員との間での意思疎通を円滑にさせるという役割があります。職員のモチベーションや市長の意思形成のプロセス等、市役所全体が統一感を持って、問題意識を共有しながら行動していく為にも副市長という存在は大きいと考えます。市長と市職員の間で、よい意見を引き上げて対応していただけることを期待しています。

市政報告通信
高志会

第３号
発行：高志会

若い力を、
高石市のために。

松本善弘 /38才

まつもとよしひろ



高石市議 1 期目

<http://ameblo.jp/matsumotoyoshihiro/>

畑中政昭 /31才

はたなかまさあき



高石市議 2 期目

<http://hatanakamasaaki.net/>

平成２４年度予算が賛成多数、反対少数で可決されましたが・・・

「中学校給食の導入」や「東南海・南海地震に対応した防災対策」などが組み込まれた今年度の予算が可決されました。これらは前の選挙でも多数の候補者が公約に掲げられていたので、市民ニーズが高い政策がいくつか実現したと非常に嬉しく感じております。

しかし、敢えて問題提起をしたいと思います。それは「予算に反対するという行動がもたらす結果」についてです。

予算は反対多数で否決されると、その予算は執行されません。政策部分が削ぎ落とされた暫定予算が組まれます。その暫定予算が組まれると、上記のような中学校給食の導入や防災対策は著しく遅れるか、実現困難になってしまいます。「予算に反対するという行動がもたらす結果」は、市民ニーズの高い政策が実現できなくなるということに繋がります。

今回の予算を反対した議員さんは、そんな結果になっても致し方なしとご判断されたのでしょうか。高志会としては、スマートウェルネスシティや国民健康保険などの個別的な課題に否定的な見解を示しているものの、それでも中学校給食や防災対策は市民ニーズが高い政策であり、進めていかなければならないと認識し、賛意を表しました。次ページでは私たちの予算に対する指摘や要望を掲載しております。どうぞ、ご高覧ください。

ご高覧いただき有難う
ございました。ご意見等
ありましたら、お気軽に
お寄せ下さい。

畑中まさあき
TEL:072-263-0522
FAX:072-263-9888
gavhattan@hotmail.com

松本よしひろ
TEL:072-271-0337
FAX: //
m-yoshihiro@syd.odn.ne.jp